

サ ク

～2009年春、満開のサクラのもとで卒業しよう～

第34号
2008. 12. 01

呉（くれ）と木部

今年の夏、民間の社会科教育団体が主催する全国大会が明治大学（東京）であり、参加する機会に恵まれました。実はこの時、以前知り合った広島県呉市在住の先生から興味深いお話をうかがいました。

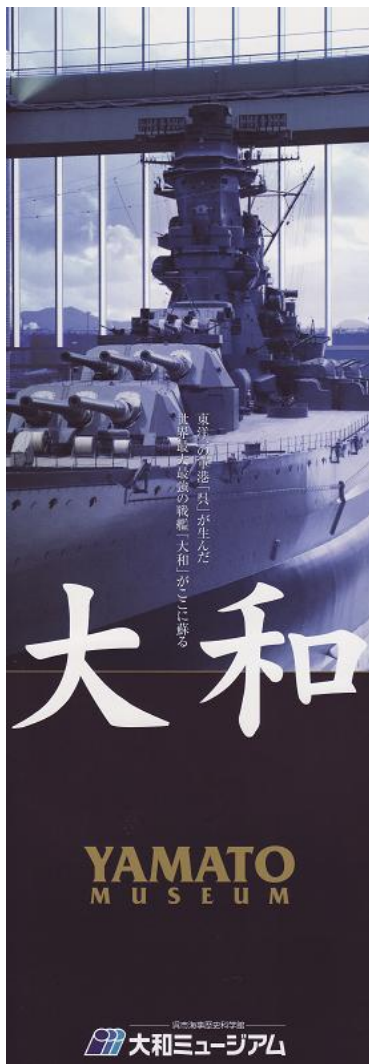
戦前から戦中にかけて、西海の守りを固める目的で、呉には日本海軍の鎮守府が置られました。戦艦などを建造するための海軍工廠や水兵を教育するための海兵団などもあり、日本海軍の一大軍事要塞としての機能を持っていました。あの有名な戦艦「大和」もこの町で建造されたのです。4人が毎日のように読んでいた『はだしのゲン』にも呉空襲の場面が登場しますが、何度も空襲にさらされたのはこのような軍事要塞としての機能を果たしていたからです。

ところで私が興味深く思った話というのは、呉海兵団に所属していた反戦水兵のことです。海軍に所属していた水兵たちの中に反戦に立ち上がった人々がいたという事実です。満州国が建国された1932年、この水兵たちは反戦や自らの待遇改善を掲げて、『簗ゆるマスト』というガリ版刷りの紙面を発行するのです。しかし、時は「治安維持法」下の社会です。弾圧をおそれ、極秘のうちに届けられた同紙を、水兵読者たちはどんな思いで読んだのでしょうか。

実は先日、呉市に行く機会がありました。偶然ですが、この呉市在住の先生たちが世話役になって中国ブロックの研究会が呉市であったのです。2日目はフィールドワークで、「大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）」や「てつのくじら館（海上自衛隊呉史料館）」の見学もありました。3連休の中日ということもあって、両施設とも大勢の人でした。私も陸に展示

されている潜水艦に乗り込みながら、あるいは海上自衛隊の隊員たちが体操する姿を横目で見ながら、70年以上も前の反戦水兵たちの姿に思いを馳（は）せていました。なぜなら第6号まで発行された『簗ゆるマスト』の最後の編集長が木村莊重（むらしげ）さんだからです。木村莊重さん、ご存知ですか。そうです。戦後間もない1947年から3年あまり、木部村の村長を務めた木村莊重さんその人です。

東京で、呉の方から、木部のことを学ぶ…、おもしろいですね。



◆ 12月の行事予定 ◆

- 1日（月） 期末テスト（～2日）
- 2日（火） ALT来校
- 5日（金） 道徳公開授業
三者面談
- 9日（火） 歯科検診
- 10日（水） 執行部主催 UNO 大会
- 12日（金） 立会演説会及び選挙
ワックスがけ
- 16日（火） ALT来校
- 19日（金） 避難訓練
- 22日（月） 生徒総会
- 24日（水） 終業式